

朝日新聞 額絵新シリーズ

傑作「叫び」で知られる、ノルウェーの画家エドバルド・ムンク。生と死、愛をテーマに人間の心の内の葛藤を描き、20世紀の美術に多大な影響を与えました。

今回のシリーズでは、世界最大のムンク・コレクションを誇るノルウェー・オスロ市立ムンク美術館の作品から、「叫び」に代表される愛や人生に悩む人々の姿を描いた作品、また彼が愛した故郷ノルウェーの美しい風景画など24枚を額絵にしました。

毎月2枚組みで1年間、ご希望の読者のみなさまにASA（朝日新聞サービスアンカー）から無料でお届けします。

愛と葛藤の画家 エドバルド・ムンク

Edvard Munch

エドバルド・ムンク
(1863~1944年)

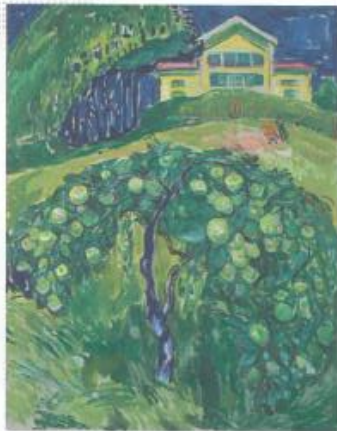
20世紀美術の潮流「表現主義」の先駆けとなった、ノルウェーを代表する画家。フランスやドイツ、故郷を行き来しながら、次第に名を高め、40代で祖国でも評価を確立した。自ら体験した不穏な出来事や個人的な感情の揺らぎに着想を得た多くの作品を残している。

年間ラインナップ

B4判 表面カラー 2枚組み
毎月1回発行(全12回) 合計24枚

第1回	自画像 (1882年) 夏の夜、人魚 (1893年)
第2回	カーレン・ビョールスタ (1888年) 赤と白 (1899~1900年)
第3回	赤い鳥 (1898~1900年) 叫び (1910年?)
第4回	絶望 (1893~94年) 月明かり、浜辺の接吻 (1914年)
第5回	目の中の目 (1899~1900年) クビドとプシュケ (1907年)
第6回	灰 (1925年) 生命のダンス (1925年)
第7回	エリーザベト・フェルスター・ニーチェ (1906年) フリードリヒ・ニーチェ (1906年)
第8回	並木道の新雪 (1906年) 黄色い丸太 (1912年)
第9回	疾駆する馬 (1910~12年) 太陽 (1910~13年)
第10回	星月夜 (1922~24年) 家壁の前の自画像 (1926年)
第11回	二人、孤独な人たち (1933~35年) 浜辺にいる二人の女 (1933~35年)
第12回	庭のリンゴの樹 (1932~42年) 自画像、時計とベッドの間 (1940~43年)

「庭のリンゴの樹」



「生命のダンス」



「二人、孤独な人たち」



「カーレン・ビョールスタ」

※ふりがなは朝日新聞社でふりました。 © Munchmuseet

額絵専用ファイルとアートフレーム(額縁)をご用意しました

※お届けは7月以降になります。



専用ファイル 905円(税別)

シリーズ全24枚を1冊にまとめられるオリジナルデザインの専用ファイルです。

ハードカバー、PP(ポリプロピレン)ポケット13枚

※専用ファイルは数量限定製作です。在庫がなくなり次第販売を終了します。

アートフレーム(額縁)

905円(税別)

額絵を引き立てるアートフレームです。

B4判、木製フレーム、マット付き、前面透明ベツト樹脂製
※取り扱っていないASAもあります。



キリトリ線

— 申込書 —

朝日新聞額絵シリーズ「愛と葛藤の画家 エドバルド・ムンク」**無料**

お名前	
ご住所	
電話番号 ()	お問い合わせ、お申し込みは最寄りのASAへ
<p>専用ファイル、アートフレーム(いずれも有料)をご希望の方は、○で囲んでください。</p> <p>■専用ファイル 定価905円(税別)</p> <p>■アートフレーム(額縁) 定価905円(税別)</p>	
<p>ASA 南生田</p> <p>☎ 044(976)0540</p> <p>FAX 044(977)3793</p>	

お預かりした個人情報は、額絵、専用ファイル、アートフレームのお届けのみに使用いたします。